

V 学生の受け入れ

1 学生募集

1.1 学生の募集方針

本校は「教育方針」として、以下（資料5-1-1）に示す優秀な人材の育成を教育の目的としている。

資料5-1-1 教育方針

人間味豊かで、創造力があり、如何なる困難にも屈しない強固な意志と厳しい試練にも耐える強健な身体とを持ち、豊かな教養があり、工学についての基礎学力が十分で、実践的技術に優れた人物を育成する。

（「学校要覧」より）

上記目的を達成するために、工業分野への進路を希望する中学生の中から、高専教育を理解し、高い資質と適性を有する優秀な人材を確保することを、学生の募集方針の基本とする。また、アドミッションポリシーは下記（資料5-1-2）のように定め、学校案内、編入学生募集要項、専攻科学生募集要項等に明示して各方面に配付、県下中学校に対する学校説明資料に明記するほか、本校ホームページで公開している。また、教務委員会を中心に入学後における学力動向やアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているかを継続的に調査分析し、入試選抜方法の改善に役立てている。

資料5-1-2 アドミッションポリシー

明石工業高等専門学校は、自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意思を持った次のような方の入学を期待しています。

【本科のアドミッションポリシー】

1. 工学に興味を持ち、将来技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に興味を持って取り組める人

【編入学者向けのアドミッションポリシー】

1. 数学および英語に関して工学教育を受けるために必要な学力を有する人
2. 専門的基礎学力に優れている人
3. さまざまな実験や実習に興味を持って取り組める人

【専攻科のアドミッションポリシー】

1. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目及び英語が得意な人
2. 最も得意とする専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外をも学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

（「学校要覧」、本校ホームページ等より）

高専をめぐる社会情勢は、学齢人口の減少、高学歴・大学志向、理工系離れなど志願者募集にとつ

て厳しいものであり、また本校は多くの理工系高等教育機関と競合する立地条件下にある。このような状況を踏まえ、早期より諸種の方策を立てて高専の理解を深める広報活動を積極的に展開し、意欲的で優秀な志願者を募集することを基本方針として取り組んできた。入学志願者対策は本校の最重要課題で、平成 21 年度より入学志願者確保検討専門委員会と、具体的な検討を行うためのワーキンググループを立ち上げ、本校のPR活動や入試方法を改善し、本科入学志願者確保の対策を検討実施してきた。また、女子中学生等の確保のために平成 22 年度 10 月には入試戦略ワーキンググループを立ち上げた。

1.2 学生募集のための広報活動

学生募集に向けた広報活動として、本校の教育の趣旨と特徴をPRするために、県下250校以上の中学校訪問の他、中学校教員との懇談会・オープンキャンパス・学校説明会・中学生を対象とした公開講座・出前講義の開催、各種の学校案内資料の作成と配付など、広報活動を広範に展開している。また、本校ホームページにアドミッション・ポリシーを公開しており、アクセスログの解析によると、平成 22 年 6 月～平成 22 年 11 月の入学案内のページには、準学士課程で 8009 件、専攻科で 2159 件及び編入学で 2023 件のリクエストがレポートされている。以下に広報活動の概要を示す。

① 生徒・保護者への広報活動

ア オープンキャンパス

内容：各学科の特色を生かし、学科内容が理解できるプログラムに則り、技術体験を提供する。進学相談も行う。

時期：8 月下旬の 2 日間（平成 21 年度より土曜日を含む）

イ 学校説明会

内容：学校概要・学科選択指針，募集要項に基づく入試説明，質疑応答

時期：10 月中旬～12 月初旬，本校（2 回）・姫路（2 回）・小野・三田・神戸・西宮・尼崎（奈良高専と共催）・大阪（2 回）（奈良高専と共催）の会場で，実施日をずらして実施。
（平成 20 年度までは本校・西宮・姫路・三田の 4 会場のみで，実施日をずらして実施）

ウ 学習塾対象進路説明会

内容：塾の生徒・保護者を対象に，学校概要・学科選択指針，募集要項に基づく入試説明，質疑応答

時期：9 月初旬，西・中・東播磨地区，神戸・阪神地区で開催

② 中学校との連携，広報活動

ア 中学校長会との定期懇談会

内容：県内 8 学区の代表校長との入試，教育全般の懇談

時期：6 月，11 月

イ 入試懇談会

内容：中学校の進路担当教諭を対象に，募集要項に基づく入試説明，質疑応答，学内見学

時期：10 月初旬，本校及び姫路・西宮・三田・豊岡の会場で開催

ウ 明石学区教育懇談会

内容：本校の地元である明石学区の中学校長・進路担当教諭との、高専教育や同学区出身学生の学業状況などに関する懇談

時期：6月下旬

エ 中学校訪問

内容：入学者募集関係資料，当該中学校出身学生の修学状況資料等を提供し，懇談的に入学案内を行う。

オ 学習塾対象説明会

内容：学習塾講師を対象に，募集要項に基づく入試説明，質疑応答，学内見学

時期：9月初旬，本校会場で開催

(平成19年度より実施)

③ 学校案内資料の作成と配付

表5-1-1 各種冊子名と配付数

資 料 名	部 数
準学士課程入学者募集要項	4,700
専攻科入学者募集要項	300
編入学生募集要項	250
学校案内(中学生向け)	8,500
学校要覧	700
専攻科案内パンフレット	1,100
学校紹介リーフレット	65,000
オープンキャンパスリーフレット	5,900
学校説明会リーフレット	6,000

④ 学生募集関係諸活動参加者数

表5-1-2 学生募集関係諸活動参加者数

行 事 名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
オープンキャンパス	598	671	556	670	711
学校説明会	365	385	406	397	560
入試懇談会	175	163	144	123	123
学習塾説明会		11	11	14	16

ここ5年間の主要な活動の参加者数は表5-1-2の通りである。各種広報活動の効果を見極めつつ、状況の変化に対応した効果ある運営方法の検討、各種案内資料の改善などを行ってきたが、受験者の減少がみられる現状では、今後さらに継続的な努力が必要である。

2 準学士課程入学者選抜

2.1 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査によるものと、推薦によるものとの二つの方法で行い、いずれにおいても志願者の基礎学力・資質・適正を多面的に正確かつ公平に判断し選考することを基本としている。選抜にあたっては、入学者受け入れ方針としてアドミッションポリシーを制定し、学校案内や本校ホームページ等を通じて広く周知している。

学力検査による場合は、学力検査の結果にあわせ中学校における学業成績も十分に考慮して選考を実施し、学力検査成績・調査書の二つを総合して選抜する。学力検査は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科について行い、調査書のうち学習状況の記録については中学校3年間の状況をすべて対象として考慮する。

推薦による場合は、中学校長から推薦された者の中から、中学校における学業成績・人物・志望理由・適正・関心などを広く総合的に判断して、本校教育に相応しい入学者を選抜することを旨とし、その人数は平成22年度入試より各学科とも入学定員の50%程度（平成21年度入試までは40%程度）としている。中学校長の推薦を得る要件としては、学業・人物ともに優秀である者、当該学科への志望理由が明白・適切で、志望学科に対し適性・関心を有する者とする。以上の方針に基づき、推薦書・調査書・面接結果を総合して選抜する。推薦による入学者の入学後の学業成績は優秀で、中学校時の成績・人物・その他との相関が高い。推薦選抜については、今後さらに多様な選抜方法を検討していく予定である。

2.2 学生定員の充足状況

過去5年間の志願者数、合格者数、入学者数は表5-2-1のとおりである。

表5-2-1 入学志願者・入学者数等一覧

年度	学 科	入学定員	志 願 者		合 格 者		入 学 者		倍 率	
			全体	内推薦	全体	内推薦	全体	内推薦	全体	内推薦
19年度	機 械 工 学 科	40	79(4)	52(2)	41(1)	18(1)	41(1)	18(1)	2.0	2.9
	電 気 情 報 工 学 科	40	90(4)	68(2)	41(0)	18(0)	41(0)	18(0)	2.3	3.8
	都市システム工学科	40	43(6)	31(5)	43(4)	18(2)	43(4)	18(2)	1.1	1.7
	建 築 学 科	40	50(19)	36(15)	41(14)	18(12)	41(14)	18(12)	1.3	2.0
	合 計	160	262(33)	187(24)	166(19)	72(15)	166(19)	72(15)	1.6	2.6
20年度	機 械 工 学 科	40	64(2)	45(2)	42(1)	18(1)	41(1)	18(1)	1.6	2.5
	電 気 情 報 工 学 科	40	63(5)	46(5)	41(3)	18(3)	41(3)	18(3)	1.6	2.6
	都市システム工学科	40	57(9)	39(7)	42(8)	18(4)	41(8)	18(4)	1.4	2.2
	建 築 学 科	40	67(30)	49(22)	41(18)	18(10)	41(18)	18(10)	1.7	2.7
	合 計	160	251(46)	179(36)	166(30)	72(18)	164(30)	72(18)	1.6	2.5
21年度	機 械 工 学 科	40	69(1)	42(0)	41(0)	19(0)	41(0)	19(0)	1.7	2.2
	電 気 情 報 工 学 科	40	81(4)	50(2)	41(1)	19(1)	41(1)	19(1)	2.0	2.6
	都市システム工学科	40	36(10)	26(9)	42(9)	19(7)	42(9)	19(7)	0.9	1.4
	建 築 学 科	40	34(12)	27(9)	41(11)	19(8)	41(11)	19(8)	0.9	1.4
	合 計	160	220(27)	145(20)	165(21)	76(16)	165(21)	76(16)	1.4	1.9
22年度	機 械 工 学 科	40	60(2)	50(2)	42(2)	21(2)	42(2)	21(2)	1.5	2.4
	電 気 情 報 工 学 科	40	54(3)	39(3)	42(3)	21(2)	42(3)	21(2)	1.4	1.9
	都市システム工学科	40	49(13)	36(11)	43(11)	21(7)	43(11)	21(7)	1.2	1.7
	建 築 学 科	40	66(25)	49(22)	42(17)	21(11)	42(17)	21(11)	1.7	2.3
	合 計	160	229(43)	174(38)	169(33)	84(22)	169(33)	84(22)	1.4	2.1
23年度	機 械 工 学 科	40	68(2)	50(1)	67(2)	50(1)	42(0)	21(0)	1.7	2.4
	電 気 情 報 工 学 科	40	82(5)	60(4)	80(5)	60(4)	43(3)	21(2)	2.1	2.9
	都市システム工学科	40	52(9)	32(7)	51(8)	32(7)	43(5)	21(3)	1.3	1.5
	建 築 学 科	40	56(23)	37(20)	56(23)	37(20)	43(15)	21(12)	1.4	1.8
	合 計	160	258(39)	179(32)	254(38)	179(32)	171(23)	84(17)	1.6	2.1

(注) () は推薦選抜者を内数で示す。

平成21年度は2学科が倍率0.9であるが、入学志願者確保検討ワーキンググループを立ち上げて入学志願者の確保の対策を実施した結果、平成22年度以降は1.0倍以上に回復している。このように、志願者数としては学科により変動はあるものの、全体としては定員のほぼ1.5倍前後となっている。この倍率は前回の自己点検時の2倍前後に比べると大きく減少し、また国立高専機構の中期目標の1.8倍にも届いていないのが現状である。この原因としては、1) 兵庫県では高等学校か高等専門学校の専願が原則であり、その選択も中学校側が安全志向で指導される傾向が強く、県内の各高校の倍率は低く、倍率は1倍を切るところも多いこと、2) 公立高等学校の総合選抜がなくなり、複数志願制になったこと、3) 中高一貫校の設置や高専と競合するような特色学科ができて中学生の選択肢が増えたこと、4) 本校は中学校側に難関校とみられており、敬遠される傾向があること 等が考えられる。このことを踏まえて、さらに入学者確保の具体的対策を検討し、実行する必要がある。

過去5年間の各学科の在学者数の推移は表5-2-2のとおりである。女子学生についてはいずれの学科にも在学し、在学者数に対する女子学生の比率は毎年おおむね15%強となっている。また、学科別で見ると建築学科では、5年間の平均で学科定員の約34%、都市システム工学科では約19%であり、女子学生の割合が高いように思える。

表5-2-2 在学者数の推移

学 科	学年定員	学科定員	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
機械工学科	40	200	213 (5)	211 (5)	218 (3)	210 (4)	210 (6)
電気情報工学科	40	200	213 (13)	208 (10)	209 (10)	208 (8)	213 (10)
都市システム工学科	40	200	204 (42)	206 (39)	207 (38)	213 (38)	207 (38)
建築学科	40	200	209 (72)	204 (67)	200 (67)	204 (69)	205 (77)
合 計	160	800	839 (132)	829 (121)	834 (118)	835 (119)	835 (131)

(注) () 内は女子学生を内数で示す。

3 編入学者選抜

工業高校から高専4年次への編入学の受け入れは、本校においては昭和51年度から実施している。本制度は、地元工業高校からの要請に基づき、学内関係各部の検討を経て実施が決定された。その目的は、工業高校卒業者に高専進学の道を開き、さらに高度な専門教育を受ける機会を提供することにあるが、併せて、異なる教育制度からの学生の受け入れが高専学生への刺激となることが期待されるところにある。編入学生選抜においても、準学士課程選抜と同様に受け入れ方針としてアドミッションポリシーを制定し、広く周知している。

編入学生の受け入れにあたっては、工業高校における教育課程を十分に考慮しつつも、本校教育に相応しい基礎学力と能力を備えた人材の選考を基本方針とし、学力検査成績と面接、調査書を総合して選考を行うこととしている。

最近5年間における志願者及び入学者の状況は、表5-3-1のとおりである。年度により、また、学科により志願者・入学者ともに変動があるが、その原因としては、本制度実施以来本校が期待

する学力の基準が幾分高く、編入学試験が高校側から見て難関視されていること、さらに工業高校においても近年推薦入学などによる大学進学志向が増大していること、編入学試験実施時期の問題等々によるものと考えられる。

編入学合格者については、本校教育への円滑な導入を図るために、基礎科目の事前指導も計画的に実施してきた。さらに、平成 20 年度、21 年度には高専機構からの事前学習指導の経費が付き、各学科の入学者に対して事前指導のプログラムの構築や編入学者との懇談などを通して充実させてきている。入学者は卒業までの 2 年間、学業に多大の努力を重ね成果をあげている。

表 5-3-1 編入学志願者・入学者数一覧

学 科	募集人員	19 年 度	20 年 度	21 年 度	22 年 度	23 年 度
機械工学科	若干名	2 (2)	4 (2)	1 (0)	1 (0)	2 (0)
電気情報工学科	若干名	2 (0)	8 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (0)
都市システム工学科	若干名	2 (0)	1 (1)	3 (1)	0 (0)	0 (0)
建築学科	若干名	5 (1)	11 (2)	2 (0)	3 (3)	4 (2)
合 計		11 (3)	24 (6)	7 (2)	4 (3)	8 (2)

(注) () 内数字は入学者数を示す。

4 専攻科入学者選抜

4.1 選抜方法

専攻科に入学志願する学生には、アドミッションポリシーに適合する工学的資質が高く、学業成績が上位であり、卒業研究への取組みに優れていることなどが要求される。また、技術者としての使命感・倫理観・協調性も重要であり、クラブ活動や学生会活動などの経験も大切な要素である。専攻科の入学者選抜においては、推薦と学力の 2 回実施している（平成 21 年度入試までは推薦と学力前期・後期の 3 回実施）。

推薦選抜では、専攻科への入学意志が確立している学生を早期に選抜することを目的として、学校長の推薦書、高専在学時の成績である調査書と面接から選考している。学力選抜では、英語・数学・専門の学力試験、調査書及び面接から選考している。

4.2 学生定員の充足状況

平成 19 年度以降の入学志願者は、19 年度 42 人、20 年度 50 人、21 年度 56 人、22 年度 51 人、23 年度 53 人で、5 年間の合計は 252 人となる。定員に対する志願者倍率は平均で 3.15 倍となり、就職状況や大学編入状況が順調な状況下にあつて、安定した志願者数を確保している。合格者数は 5 年間の合計で 157 人となり、実質倍率は 1.6 倍となる。合格者に対する入学率率は、平成 21 年度が 84% であるが、それ以外はほぼ 100% で、平均すれば 96% でかなり高いと言える。なお、年度別の入学状況は表 5-4-1 のとおりである。

また、年度別の在籍者状況は表 5-4-2 のとおりである。定員に対する充足率は、平成 18 年度 150%、19 年度 163%、20 年度 184%、21 年度 197%、22 年度 200% であり、平均すれば 179% となる。

表5-4-1 年度別専攻科志願者・合格者・入学状況

年度	学 科	入学定員	推 薦				学力前期				学力後期				入学者 計
			志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	
19	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	5(1)	5(1)	5(1)	5(1)	16(1)	12(1)	7(1)	7(1)	3(0)	3(0)	2(0)	2(0)	14(2)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	8(2)	8(2)	8(2)	8(2)	8(1)	5(0)	5(0)	5(0)	2(1)	2(1)	1(0)	0(0)	13(2)
	合 計	16	13(3)	13(3)	13(3)	13(3)	24(2)	17(1)	12(1)	12(1)	5(1)	5(1)	3(0)	2(0)	27(4)
20	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	10(0)	10(0)	10(0)	10(0)	12(1)	12(1)	6(0)	6(0)	7(1)	7(1)	1(1)	1(1)	17(1)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	5(2)	5(2)	5(2)	5(2)	13(2)	13(2)	10(2)	10(2)	3(0)	3(0)	2(0)	2(0)	17(4)
	合 計	16	15(2)	15(2)	15(2)	15(2)	25(3)	25(3)	16(2)	16(2)	10(1)	10(1)	3(1)	3(1)	34(5)
21	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	14(1)	14(1)	10(1)	10(1)	16(0)	11(0)	6(0)	5(0)	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)	15(1)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	13(4)	11(3)	7(1)	3(1)	5(2)	3(2)	2(2)	2(2)	11(4)
	合 計	16	20(2)	20(2)	16(2)	16(2)	29(4)	22(3)	13(1)	8(1)	7(2)	4(2)	2(2)	2(2)	26(5)
22	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	7(0)	7(0)	7(0)	7(0)	18(0)	11(0)	9(0)	9(0)					16(0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	8(2)	8(2)	8(2)	8(2)	18(4)	11(2)	10(2)	10(2)					18(4)
	合 計	16	15(2)	15(2)	15(2)	15(2)	36(4)	22(2)	19(2)	19(2)					34(4)
23	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	10(0)	10(0)	9(0)	9(0)	21(0)	15(0)	7(0)	7(0)					16(0)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学 攻 読	8	11(3)	11(3)	11(3)	11(3)	11(0)	6(0)	3(0)	3(0)					14(3)
	合 計	16	21(3)	21(3)	20(3)	20(3)	32(0)	21(0)	10(0)	10(0)					30(3)

(注1) 平成22年度からは学力入試は年1回となった。

(注2) () は女子内数を示す。

表5-4-2 年度別専攻科在籍者状況

年 度	専 攻	専攻定員	1 年	2 年	計
18	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学	16	15 (1)	10 (2)	25 (3)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学	16	8 (0)	15 (6)	23 (6)
	計	32	23 (1)	25 (8)	48 (9)
19	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学	16	14 (2)	15 (1)	29 (3)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学	16	13 (2)	10 (1)	23 (3)
	計	32	27 (4)	25 (2)	52 (6)
20	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学	16	17 (1)	13 (2)	30 (3)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学	16	17 (4)	12 (2)	29 (6)
	計	32	34 (5)	25 (4)	59 (9)
21	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学	16	15 (1)	19 (1)	34 (2)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学	16	11 (4)	18 (4)	29 (8)
	計	32	26 (5)	37 (5)	63 (10)
22	機 械・電 子 シ ス テ ム 工 学	16	16 (0)	16 (1)	32 (1)
	建 築・都 市 シ ス テ ム 工 学	16	18 (4)	14 (5)	32 (9)
	計	32	34 (4)	30 (6)	64 (10)

(注1) () 内は女子学生を内数で示す。

(注2) 在籍者数は各年度5月1日現在での状況を示す。

5 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 準学士課程入学生，4年次編入学生及び専攻科課程入学生のアドミッションポリシーを定め，ホームページ等に掲載し公表している。
- ・ 入学後において学力動向やアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているかを継続的に調査分析し，入試選抜方法の改善に役立てている。
- ・ 中学校教員との懇談会・中学校訪問・オープンキャンパス・学校説明会・中学生対象公開講座・学習塾対象説明会など広範な広報活動を行うことにより，高い資質を持った入学者を確保している。
- ・ 入学志願者確保検討WGや入試戦略WGを立ち上げ，高い資質の入学志願者確保の方法を検討し，実施している。

(改善を要する点)

- ・ 相対評価から絶対評価に移行した中学校側の成績評価変更の影響については，今後とも追跡調査を行い，より適切な選抜方法を検討する必要がある。
- ・ 志願者確保の方法として，女子中学生へのアピールをすることが必要である。